

1945年8月6日午前8時15分、人類史上初めて原子爆弾が広島に投下されました。それから78年の時が経った2023年、私は初めて広島に足を踏み入れ、その実態を知りました。

広島に行って一番感じたことは、「戦争は人を人ではなくさせる」ということです。人の身体的な部分はもちろん、精神的な部分もです。平和記念資料館を見学したとき。被爆者の方の話聞いた時。原爆に関わる全てのものを目の前にしたとき。そのとき私が感じたものを言葉に表せない恐怖心、怒り、様々な感情が交錯していきました。それは、学校の授業で勉強する写真や資料とはなにかが違いました。原爆ドームを始めて生で見たとき、私は「78年前、ここに原爆が落とされたんだ。」と思いました。私は今まで、広島に原子爆弾が投下されたことを「歴史上の一つ出来事」とだけしか捉えていなかったことに気づきました。原爆投下の候補地に新潟も含まれていたことを知ったときは、他人事ではないと思いましたが、実際は他人事に考えていたのだと気づかされました。

さらに、広島に行って深く感じたことは、「命の尊さ」です。被爆者の方から話を聞いたとき、深く心に残った言葉があります。

「捨てていい命、奪っていい命なんて無いんです。」

命を粗末にしないで欲しいという、被爆者の方の心の叫びを聞いたような気になりました。人類が経験してはいけない被爆というものを経験した被爆者の方だけがわかる辛さ、苦しさを目で、耳で、心で感じました。今回私たちが話を聞いた被爆者の方は、92歳の方でした。

被爆者の生の声が聴けるのは私たちの世代で最後だと思います。技術の発展が進む中、戦争は、核兵器の使用は絶対にもう二度としてはいけないことを次へ、次へと伝えられるのは私たち自身ということを改めて感じました。

最後に、このような貴重な経験をできる機会に恵まれたことに心より感謝します。核廃絶と世界恒久平和を願って。「安らかに眠って下さい、過ちは繰り返させぬから」